

学校・家庭・地域社会の連携による学校経営 ～家庭・地域社会の教育力を活用した学校経営～

I 主題設定の理由

少子・高齢化，国際化，情報化が進む中，社会の様々な変化が急速に進んでいる。物の豊かさや便利さの追求のなかで物を大切にする心の喪失，少子化のなかで人間関係の希薄化や規範意識の低下，フリーターやニートなどに見られる青少年の労働観や職業観の変化など，様々な問題が起こっている。

今こそ，学校だけでなく，家庭や地域社会の幅広い教育機能を積極的に活用し，学校・家庭・地域社会がお互いに連携し合い，それぞれが持っている教育力を発揮して，地域社会や保護者の信頼に応え，バランスの良い教育を進めていくことが大切である。そのためには，学校は自らの責任を改めて自覚すると共に，家庭や地域の理解と協力を得て，開かれた学校づくり・特色ある教育活動をなお一層推進しなければならない。

そこで，これまでの実践を検討し，成果や課題を明らかにする中で，学校・家庭・地域社会の連携の在り方，校長としてどのように関わったらよいのか，追求することにした。

II 研究の概要

(1) 研究計画

第1年次（平成18年度）

- ・各校の特色を生かした地域人材の活用と工夫，地域との交流活動の工夫，地域の自然や文化財の活用と工夫，キャリア教育（職場体験学習）等について，各校の事例を発表し合い，成果や課題，校長としての関わり方や指導性を明らかにする。

第2年次（平成19年度）

- ・1年次の研究の成果をもとに，各校の実践事例研究を進め，研究成果を発表する。

(2) 研究の内容

【各校の実践発表の主なもの】

- ①地域社会の人々との交流活動
- ②地域の自然や文化財の活用と工夫
- ③地域文化財学習での人材活用
- ④総合学習での人材活用と地域との連携
- ⑤環境教育，福祉教育，講演会での人材活用

- ⑥道徳授業，各教科の授業での人材活用
- ⑦選択授業，学校行事等での地域人材の活用
- ⑧教育懇話会での地域人材の活用
- ⑨キャリア教育（職場体験学習）
- ⑩地域と連携した農業体験学習
- ⑪地域の祭り，伝統芸能等，地域との連携

III 成果と課題

- ・各校とも，実に多くの実践がされている。外部講師との交流，体験により，幅広い学習，新鮮な刺激，学習意欲の喚起，積極的に学習に取り組む姿勢の醸成等の教育効果が生まれている。地域には素晴らしい人材が大勢いるので，今後も人材を発掘し，大いに活用を図りたい。
- ・地域との交流活動は，地域の人々に学校を知ってもらい良い機会となっている。
- ・地域の貴重な歴史・文化遺産を学び，地域を愛し誇りを持つことは，広い視野を持ってこれからの社会を生きていく力となる。
- ・地域人材の活用にあたっては，公的機関の職員・保護者・祖父母以外の場合は，一般的に謝礼等の心配をしなければならない。市の財政難で補助金減額の折，外部講師の活用が盛んになる一方で，予算面の心配がある。
- ・取り組みにあたっては，担当より職員会議へ実施要項の提案，外部講師との折衝，当日の運営，事後の実践活動など，相互に連携した動きをコーディネートすることが校長の役割・指導性として要求される。
- ・外部講師との協力関係について，日頃から礼を尽くし，いつでも気軽に協力していただけるように，つながりを持つことも校長の役割として大切である。
- ・キャリア教育については，十数年前から全ての中学校で一日程度の職場体験学習を実施している。保護者の勤務先や教師の知り合いを頼って，各学校で受け入れていただける企業を探し，実施している。平成18年度は，甲州市の大和中学校・勝沼中学校・松里中学校の3校が文科省から「キャリア教育実践プロジェクト」の地域指定を受け，5日間程度の職場体験学習を含む職業や進路に係わる体験活動を実施した。今年度は甲州市キャリア・スタートウィーク実行委員会が組織され，受け入れ可能な事業所の紹介があり，各学校で活用できた。今後もこのような活動を多くの学校で継続していくためには，受け入れ先企業の理解と確保が欠かせない。学校のみでは限界があるので，行政機関が主体となった実行委員会組織の継続が必要である。
- ・職場体験・奉仕活動等を実施する場合，生徒が他人に怪我をさせたり，他人の財物を破壊したりして，損害賠償責任を負った場合の補償が問題となる。今年度の甲州市キャリア教育実践プロジェクトでは，市で一括して保険に加入していただいた。今後，このような活動が活発になるにつれ，賠償責任保険への加入が必要となり予算面での条件整備が欠かせない。

（部長 林 政美）